



～ 夢ひとすじに ～

宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 27 年度 第 3 号
平成 27 年 5 月 29 日 (金) 発行
さいたま市立宮原中学校
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

「員」と「師」

校長 やました せいじ
山下 誠二

5月16日に開催しました体育祭は、天候が危ぶまれましたが、生徒たちの熱気と先生方の思いが、雨雲を吹き飛ばしてくれ、「やまない雨はない」の言葉とおり、開会式終了後には雨もやみ、予定通り開催することができました。応援に駆けつけていただきました地域の皆様、保護者の皆様、ありがとうございました。

さて、教育に携わる者、いわゆる教壇に立つ者が所持しているのは、教員免許状です。言葉にこだわると「員」という「数・人数」を表す語と「師」という指導的な立場を表す語には、違いがあるように思います。ある人からは、「最近では教員が増えて、教師が減ってきた」と嘆くような言葉を聞くこともあります。実際、昔から比較すると先生の質も変わってきているのかもしれませんが、しかし、宮原中の先生方は「サラリーマン教員」は、一人もいません。いないと信じています。ここで先生方の一日を追ってみます。

朝6:30出勤 7:20～朝練の生徒を迎える 7:30～朝練 8:15～朝の会・掃除・授業・生活記録ノートの点検、16:00～部活動 19:00～教材研究・明日の授業の準備 21:00退勤

この流れは、一人の先生だけでなく、宮原中の先生方の平均的生活リズムです。校長として心配なことは、教職員の約半数が、平均睡眠時間が5時間を切っていることです。「こんな遅くまで電気をつけていると税金の無駄遣いだ」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、先生の仕事には「これで終わり」ということはありません。当然のことながら土、日も部活動の指導です。今の私には、こんな生活は無理ですが……。

下記の詩は、校長室にも飾ってありますが、柚 梨太郎さんの「先生」という詩です。

子どものことを好きなだけではダメだけど 子どものことを好きでなければ 先生にはなれない
いつもニコニコしてるだけではダメだけど 心を許し 笑えなければ 先生にはなれない
情熱一筋向かうだけではダメだけど 煌めく情熱持てなければ 先生にはなれない
思ったことを話すだけではダメだけど 思いを言葉にできなければ 先生にはなれない
子どもの傍を歩くだけではダメだけど 寄り添い 共に歩けなければ 先生にはなれない
子どもを守り 庇うだけではダメだけど 子どもの命守れなければ 先生にはなれない
信じた道を進むのは辛いことでも 仲間と夢を信じなければ 先生にはなれない
子どものことを好きなだけではダメだけど 子どもを愛するあなただから 先生と呼びたい

この詩は、プロとしての教師に求められる当然の内容であり、教育の根幹をなす詩かもしれません。「雀の学校」の歌にあるように「ムチを振りふり」は、当然のことながら不必要ですが、「めだかの学校」のように「誰が生徒か先生か」わからないような学校では、教育は成立しないとも思います。

ここでお願いします。上の詩の「先生」の箇所を「親」に置き換えてみてください。いかがですか。子どもたちから見て先生も親も常に「師」でありたいものですね。